

国際化する韓国宗教 ーキリスト教を中心にー

徐正敏
韓国 延世大学 教授

1. 'グローバル' 即ち 国際化という概念は何なのか。

韓国でもまた、この国際化という言葉についてお互い異なる観点と概念の混同がある。大きく分けると、一つ目に、現実的な世界基準の政治、経済、文化にあつて強力な影響力を与えるヨーロッパ中心の方向で国際化を志向する概念の存在である。二つ目に'国際化'や'地域化'の適切な調整により、相互理解と調和、特にこれを文化や宗教方面に適用させると、'エキュメニズム(Ecumenism)'的な思考で受け止める概念がある。発表者は二つ目の概念を指示する立場に立つ。もしグローバル化が'パクス・アメリカナ(Pax Americana)'や相反形態としての'パクス・チャイニーズ(Pax Chinese)'の概念になれば、それは正しい概念ではない。さらに、この宗教の国際化は慎重な概念設定の前提が必要である。

2. 韓国宗教の現在

韓国は日本、中国等、アジア各国と同じく、またそれ以上に、代表的多元宗教国家である。これは主流、非主流の多様ないくつかの宗教が存在する意味以外に伝統的な宗教人、儒教、仏教、民間信仰での'シャーマニズム'などが、いくつかの宗教信仰と儀礼に混載していることの意味も含まれている。特別に一番強力な教勢を誇る仏教に需要している民間信仰の痕跡、そしてヨーロッパ宗教で規制されたキリスト教に内在している'シャーマニズム'的要素や儒教的価値観などは大きな特徴として分類している。今日、これらの韓国の主要宗教は程度の違いはあるが、韓国内の布教活動を超えて、世界宣教を志向している。これと同じく韓国化した教理、制度、神学を産出している。これは、まさしく'韓国化'を通じた'世界化'という方向であるが、いくつかの問題点も抱えている。

3. 韓国キリスト教の世界宣教と反省的側面

韓国キリスト教は現在アメリカに次いで世界第2の宣教国だ。これはキリスト教被宣教国家として驚異的な現象である。しかしいろんな面で検討し、反省して見なければならない点がある。先ず韓国キリスト教の海外宣教の方法論的有形が今まで歴史的批判を受けてきたヨーロッパキリスト教のいわゆる'帝国主義的宣教方式'と、どれ程の分け隔てが存在するのかという点である。キリスト教信仰とキリスト教文化の移植という宣教方法についての再考が必要である。もう一つは行き過ぎた資本と物量に置中している可視的な宣教拡大の価値観についての批判的反省を意味する。また、'韓国化'の極端的部分としてみる事ができるが、キリスト教の世界的な普遍性を超えて、韓国で形成されたキリスト教系新興宗派の世界宣教は教理的で混合宗教の様相、行き過ぎた国粹主義的形態、非倫理的な様相まで見ることができる。